

東海道五拾三次之内 金谷 大井川遠岸

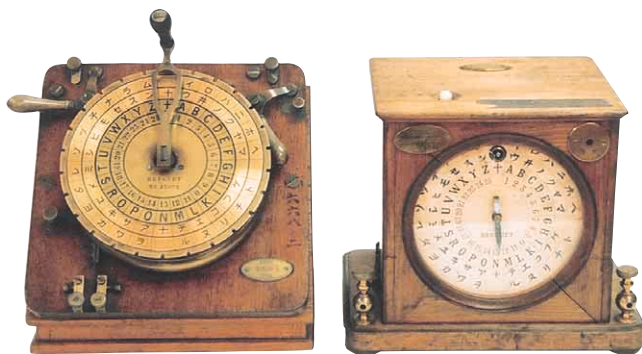


どこまでも続く砂浜と米粒のような人間との対比で、大井川が雄大に描かれています。山間にかすかに見えているのが金谷宿と思われます。

連台の客は橋の先まで運んでもらっていますが、肩車は手前の砂地までのようです。人足は相撲の仕切りのような格好で、肩車から客を降ろしています。

ていば一く所蔵資料紹介[®]

ブレゲ指字電信機



明治2年12月25日(西暦の1870年1月26日)、横浜裁判所と東京の築地運上所に電信機役所を設け、東京 横浜間に架線工事を行い、我が国初の公衆電信事業が開始されました。このとき使用された電信機がフランス製のブレゲ指字電信機で、送信スピードは1分間に5、6文字程度でした。

このブレゲ指字電信機は、実際に電信創業期に使用されたもので、本年3月、重要文化財に指定するよう文部科学省文化審議会から文部科学大臣に答申されました。

(錦絵/資料解説：附属資料館 井上卓朗)